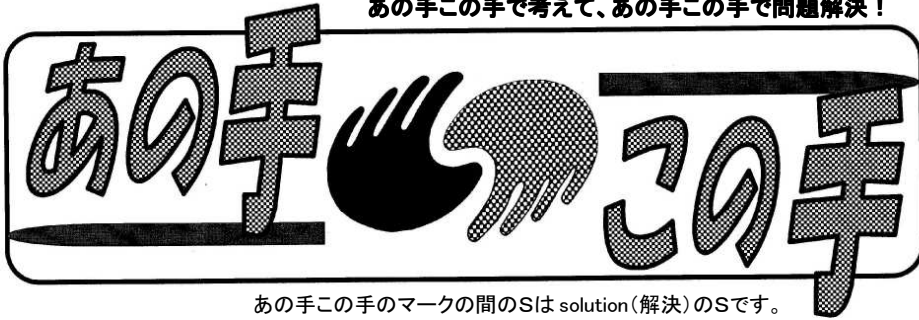
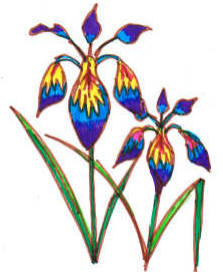


あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



2011  
5  
月号



花ことばは「良い便り」。  
「泉の森」で、もうすぐ咲きます。  
—アヤメ—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第46号 2011年5月1日発行



絵：「おとうと(ネコ)が来た日」弓削 和果(西鶴間小学校4年)



今号の表紙絵は「第2回やまと子ども絵画大賞」(2010年11月実施)での受賞作品の2回目。最優秀賞を受賞した弓削和果さんの作品です。

「やまと子ども絵画大賞」は、子どもたちに絵を描く楽しさを通して「アート」「ミュージアム」を身近に感じてもらうこと、活躍する画家と触れ合う機会をと、館長の小川政男さんの思いで始まりました。2010年のテーマは「ぼくのきねんび わたしのきねんび」。

第2回「やまと子ども絵画大賞」の表彰式が昨年の11/6(土)、桜ヶ丘の笹倉鉄平版画ミュージアムで行われました。大賞・最優秀賞・神奈川新聞社賞・優秀賞を受賞した10名のみなさんに表彰状と記念品が授与されました。

\*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

<送付の際、同封されているご案内> .....

- ・5/23(月)実施の第(41)回連続共育セミナー IT講座第3弾「パワーポイントを使ってみよう」のお知らせ
- ・「情報交差点」第6回5月1日(日)号



# 質の高い活動が広がっています

協働事業・市民活動推進補助金事業の報告会を開催

とき:4月27日(水)

ところ:大和市保健福祉センター ホール



## 市民活動推進補助金事業報告

新しい公共を創造する市民活動推進基金とは、市民活動を推進していくことを目的として、市民からの寄付金に市が上乗せをして積み立てていく「マッチング・ギフト方式」を取り入れた、市民と市の協働による基金です。

市民活動推進補助金には“めばえ(立ち上げ支援)”と“はぐくみ(活動発展支援)”があります。



## 協働事業報告

大和市は2002年に市民が考えた案をもとに「新しい公共を創造する市民活動推進条例」を作りました。『新しい公共』とは市も、市民も、市民団体も、事業者も対等にお互いの知恵や力を出しあって、地域の課題を解決することです。大和市民活動センターはこの条例に基づいて設置、運営しています。

市民活動推進補助金は次のような活動を応援します。

「何か社会に貢献する活動をはじめたい！」

「いま行っている活動の輪をひろげたい！」

「新しい分野の活動を発展、充実させていきたい！」

＜当日の市民活動推進補助金選考アドバイザー＞

かながわ県民活動サポートセンター副所長	白井善裕
NPO サポートちがさき代表理事	益永律子
さがみはら市民活動サポートセンター事務局長	水澤弘子
大和市民経済部長	石井孝雄

平成22年度の補助金交付団体から活動報告がありました。

### ★めばえ

活動をこれから始める、または、始めたばかりの団体に対する補助金。(上限5万円)

- ・中央林間南地区街づくり委員会
- ・くじらのしっぽ
- ・一般社団法人クロスオーバー大和

### ★はぐくみ

すでに活動をしている団体に、より活動を発展させるための補助金。(上限20万円)

- ・栄養サポートやまと
- ・内山の街づくりを考える会
- ・チームピース チャレンジャー



＜平成23年度＞

### 市民活動推進補助金公開選考会

6月5日(日)14:00～ 勤労福祉会館3階ホールで行い、当日決定。申請書提出は6月中旬を予定しています。

基調講演は市民社会パートナーズ代表 庄嶋孝広さん。

協働事業の『成果』と『課題』を共有し、認識しました。

新たに 協働事業を考える“ヒント”を掴みました。

現在活動している協働事業の報告がありました。

もちろん、大和市民活動センターもパワーポイントを駆使して報告しました。

### 活動団体

### 担当課

- ・食のアトリエ 農政課 / 保健給食課 / こども総務課
- ・NPO ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア 保育家庭課
- ・NPO 地域家族しんちゃんハウス こども総務課
- ・NPO やまとCAP ひまわり 指導室
- ・NPO ワーカーズ・コレクティブ想 / パパボラやまと / 社会福祉法人敬愛会 健康福祉総務課
- ・NPO 日本ガーディアン・エンジェルス神奈川本部 大和支部 / 大和女性防犯会 生活あんしん課
- ・のりあい運行委員会 街づくり総務課
- ・緑野青空子ども広場ツリーガーデン運営委員会 こども・青少年課
- ・公共基準点活用チーム 土木管理課
- ・大和フィルムコミッション準備会 イベント観光課
- ・NPO かながわ難民定住援助協会 国際・男女共同参画課
- ・NPO ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる 障がい福祉課
- ・NPO 大和市腎友会 障がい福祉課
- ・NPO たんぼぼ 障がい福祉課
- ・渋谷きんりん未来の会 生涯学習センター
- ・結の会 みどり公園課
- ・拠点やまと 市民活動課



### ＜平成23年度＞協働事業提案・市民活動推進補助金事業募集をします。

募集期間:平成23年4月15日(金)～5月16日(月)

応募方法:5月16日(月)までに「協働事業等提案申請書類」を直接市民活動課へ(除く土・日・祝日)

相談日:5月9日(月)9:00～17:00 大和市民活動センター

市民活動課職員と拠点やまとスタッフがお待ちしております。お気軽にどうぞ。

緊急「共育セミナー」 東日本大震災の被災地からの緊急報告  
「未曾有の大災害 あなたは何ができますか？」

日時：4/14(木)17:00～19:00

ゲスト：大和市民活動課 課長 北島次郎さん

参加者：23名

新鮮な野菜を届けました

リサイクルショップを運営して海外の女性の自立のための支援活動をしている「NPO 法人 WE21 ジャパン」の大上さんが、4/10(日)、メンバーといっしょに大和市内の有機野菜農家から提供していただいた野菜などを持って、福島県のいわき市へ。いわき市内3ヶ所での炊き出しはとても喜ばれたが、炊き出しを待つようになっては自立の妨げになると感じた。海外支援と同じで、支援の押し付けはよくない。心を開いて顔の見える関係をつくって、初めて支援の中味が濃くなる。余震で心が折れそうになるが、自分たちのことを思ってくれていることがうれしいと聞いて、支援のあり方を改めて考えることができた、と報告した。

一生分の“ありがとう”を言われた気がしました

陸前高田市からアンテナショップ「とれたて大和」に特産品を提供していただいているご縁で、大和市支援団は陸前高田市へ。市立病院の医師1人と看護師2人を含めた10人の支援団が医薬品をはじめ、タオル、トイレトーパー、紙おむつなどの日用品を届けた。歯ブラシをひとりひとりに手渡ししたら、とても喜ばれたと、団長の北島さんが語った。

気持ちがおいしい

被災者たちが湧き水を汲みに行ってくれて、うどんとそばの炊き出しをした。あたたかい食べものを口にできなかった人たちが喜んで食べてくれた。「おいしいですか？」との問いに「気持ちがおいしい！」と。子どもたちにと、フランクフルトとフライドポテトを用意し、その場で調理。ポテトは大人たちもとても喜んで、列に並んで手のひらに載せてもらっていた。油ものがまったく口にできなかったからでしょうと、ありがとうの言葉をかみしめながら、感激の面持ちの北島さん。

ボランティアは自己完結が原則

市民が支援に行く場合は、まずは現地のボランティアセンターに問い合わせ、何が必要かを確認し、移動手段、寝る所、食事など自己完結で行動してください、と強調された。

参加者の声、声、声

支援物資の仕分けボランティアをした。下着もタオルも山のように集まっています、涙が出そうになった。種類別、サイズ別などに分けて詰めることが大事。

実際に被災地に行った人の報告。ダイレクトに伝えてもらってよかった。支援物資などに参加して、気持ちをつなげたい。

若者の募金活動で「大人の千羽鶴」というのがある。アクセスしてください。

大和市の耐震診断は戸建て住宅のみ。マンションは対象外。この機会に制度化してほしい。仙台で調査したが、耐震改修工事が済んだマンションはどれも傷んでいなかった、と会場で写真を見せてくれた方がいて、中身の濃いセミナーになった。

被災地のことを忘れずに、あたたかく支援していきたい。

サプリメントは食品。正しく選んでもっと元気に。

連続共育セミナー 第④⑩回を開催しました

「間違いだらけの“健康常識”」

～健康オタクは早死にする！？～

日時：4/20(水) 18:00～20:00

ゲスト：大野カズミさん

(ドクターあいサプリメントパーラー  
スーパーバイザー)

参加者：18名

“目からウロコ”の話がいっぱい聞けました。



サプリメントに関しての相談も受け付けています。

塩分と添加物、どちらを選びますか？

梅干の塩分を控えるために使われる防カビ剤や防腐剤。塩分と添加物、賢い選択が必要です。

早死にしたければ、お昼は菓子パン。

菓子パンはカロリー過多のうえ、添加物がいっぱい。臭素酸カリウム(小麦粉改良剤)やタール系色素には発ガン性があることがわかっている。表示をよく見ましょう。

放射線被曝の予防対策。

放射線は一気に大量の被曝をすれば死に至る。予防としては、抗酸化酵素を体内で作り続けること。抗酸化物質…ビタミンC、E、ベータカロテンなど。

「センター」のある日ある時

3月28日(月)晴れ

「センター」入口の門扉近くに、すみれの花が咲きました。去年のあの暑い夏、水やりもしなかったのに、しっかり咲いて、春を知らせてくれています。H.P.に写真を掲載しました。

次回

連続共育セミナー 第④①回

「IT 実践講座 ～パワーポイントを使って～」

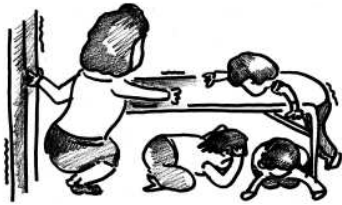
日時：5/23(月)14:00～16:00

場所：大和市民活動センター 会議室

講師：望月則男さん(拠点やまと)

協働事業、市民活動推進補助金事業の申請を考えている団体は、ぜひ、ご参加を。





大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する  
月刊広報紙「あの手 この手」。  
5月号(第46号)をお届けします。

「この頃、子どもたちったら、園庭で地震あそびをするんですよ」と幼稚園勤務の先生から聞きました。「えっ？ それ、どんなあそび方をするのでしょうか？」とお尋ねすると、「まず、誰かが『キンキュウジンソクハウ (=緊急地震速報)、キンキュウジンソクハウ』と大声で言うと、大型遊具のロープでつくった吊り橋の上にいる子どもたちがゆさゆさと吊り橋を揺らして、『うわーっ、揺れた揺れたあ』と、喜んで、何度も飽きずにあそぶんです」「ああ、だから地震あそびなんですね」とうなずくと、「あっ、それからこれも最近のことですが、外に出るときなど、保育室の電気を消すでしょ。すると、すかさず子どもが『テイデン (=停電) テイデンだ』と言って、『もう一度電気、消して消して』って……」。そうか、子どもって、すぐ地震やあの「計画停電」でさえ、あそびにしてしまうのだなあと思ったものでした。

先日、こども環境学会主催による「子どもたちに支援を！ 緊急集会」に参加する機会がありました。東日本大震災による被災地の現状と課題というプログラムのなかで、天野秀昭さんからのレポートがありました。天野さんは現在、日本冒険遊び場づくり協会副代表。1995年の阪神淡路大震災の際に神戸で「遊び場」づくりを支援した方でそのときの経験を話された。

震災から2ヶ月経ったころ、その辺から集めたベニヤ板でつくった机の上に6,7人の子どもが乗り、「震度1じゃ、2じゃ、3じゃ！」と、揺れを大きくしてきて「震度6じゃ、震度7じゃ！」と叫び、ばちゃっと机をつぶして、「わあ！」と歓声を上げる。被災した大人たちは、このあそびを見て不愉快そうに眉をひそめたという。

続けて天野さんは、震災で受けた途方もない恐怖、すさまじい被災の現場を見てしまった辛さ、降りかかった悲しさを大人は誰彼となく人に語ることによって、なんとか解決し、自分を慰め、癒そうとする。けれども、子どもはあまりに理不尽な経験をしてしまった自分の心を語る言葉を持ち得ない。もうひたすらあそぶことによって、その痛手を負った自分の心をコントロールし、立ちあがっていかうとするのですね、と。

幼稚園児の『キンキュウジンソクハウ (=緊急地震速報)、キンキュウジンソクハウ』や『テイデン (=停電) テイデンだ』あそびも、受けた恐怖や不安をなんとか解き放そうと、小さな頭で必死に考えた行為だったのだと教えられました。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2011/04/30

